

## 目次

株主のみなさまへ

2

2016年度第2四半期累計期間  
セグメント別概況(連結)

4

特集: OKIの女性活躍推進の  
取り組みについて

5

トピックス

6

株式の状況/株主メモ

7

株主インフォメーション

8

※ 金額単位の表示: 本中間報告書においては、  
億円単位未満を四捨五入しています。

※ 沖電気工業株式会社は、グローバルに認知される  
成長企業を目指し、通称をOKIとします。

### 見直しに関する注意事項

本報告書にはOKIの戦略、財務目標、技術、商品、サービス、業績などの将来予想に関する記述が含まれています。こうした記述は、現在入手可能な仮定やデータ、方法に基づいていますが、これらは必ずしも正しいとは限りません。また、これら将来予想に関する記述は、OKIの分析や予想を記述したもので、将来の業績を保証するものではありません。これらの記述はリスクや不確定要因を含んでおり、さまざまな要因により実際の結果と大きく異なることをあらかじめご承知願います。

株主のみなさまには平素よりOKIグループの経営に対しまして多大なご理解とご協力を賜り、厚く御礼申し上げます。第93期(2016年度)中間報告書をお届けするにあたり、ごあいさつ申し上げます。

当第2四半期累計期間のOKIグループの業績は、情報通信事業などの国内事業については概ね順調に推移したものの、海外事業における市場環境の変化もあり、売上高は前年同期比237億円減少の1,993億円となりました。営業損失は、物量減の影響などにより、同42億円悪化の6億円となりました。経常損失は、営業外費用において為替差損81億円を計上したことなどにより、同116億円悪化の89億円、親会社株主に帰属する四半期純損失は、公正取引委員会により調査中であった、「消防救急無線のデジタル化に係る商品又は役務」に関連した損失の発生に備え特別損失を計上したため、同144億円悪化の135億円となりました。

通期の業績予想につきましては、当第2四半期累計期間の業績を踏まえて前回公表値を修正いたしました。メカトロシステム事業では、中国ATM市場は、今後の内陸部への普及など市場の成長余地は依然としてあるものの、現在の踊り場の状況はしばらく続くものと予想されます。プリンター事業においては、オフィス需要の減少影響によって高付加価値領域の拡大効果が相殺されています。また、為替については今期の序盤に乱高下した状況から、現在の円高傾向の水準が当面継続すると考えられます。

これらにより、通期業績につきましては、売上高が前回公表比

350億円減収の4,650億円、営業利益が同50億円減益の150億円、  
 経常利益が同120億円減益の60億円、親会社株主に帰属する当期  
 純利益が同90億円減益の30億円となる見込みです。

配当につきましては、当中間期末配当は当初計画どおり1株  
 当たり2円を実施させていただきました。今期末は、2016年10月  
 1日より10株を1株に株式併合したことにより、1株当たり30円の  
 配当を行う予定です。今後も、OKIは株主のみなさまへの安定的か  
 つ継続的な利益還元を最重要課題として取り組んでまいります。

OKIは11月1日の創立記念日に、創業135周年を迎えました。こ  
 れもひとえに、株主のみなさま、お客様をはじめとするステーク  
 ホルダーのみなさまの長きにわたるご支援の賜物と、心より感謝  
 申し上げます。この長い歴史の中で、OKIは社会の発展に貢献し続  
 けてまいりました。今後も、長年培ってきた情報通信技術やメカ  
 トロ技術を活かし、人々の安全・安心を支えるシステム、サービス  
 を提供することで社会の発展に寄与し、持続的な成長を実現する  
 企業であるよう、グループ一丸となって取り組んでまいります。

足もとの状況は、円高や市場の縮小・停滞など厳しい環境下  
 ではありますが、今年度目標達成に向けてまい進するとともに、



代表取締役社長

鎌上 信也

将来の成長に向けた新規事業創出などの取り組みに、より一層  
 注力してまいります。

株主のみなさまには、これまでと変わらぬご支援とご協力を  
 賜りますようお願い申し上げます。

2016年12月

業績推移(連結)

